九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

萩野先生と謝冰心『春水』手稿

中里見，敬
九州大学 : 教授

https://hdl.handle.net/2324/7153234

出版情報：pp.68-70, 2023-10. 萩野脩二先生追悼文集編集委員会
バージョン：
権利関係：

萩野先生と謝冰心『春水』手稿

中里見　敬

私は中国古典小説を専門としている九州大学の教員で、萩野先生と師弟関係にあったわけではありません。しかし、あるご縁がきっかけとなり、二〇二三年三月四日の追悼会にオンラインで参加させていただきました。多くの方々から様々なお話を聞くことができ、萩野先生のお人柄を偲ぶことができました。開催に尽力された牧野格子先生をはじめとする皆様に厚く御礼申し上げます。

萩野先生とは一度だけ面晤の機会をいただきました。それは二〇〇五年九月、九州大学在職中に病に倒れた日下翠先生のお通夜の場でした。ご夫君の日下恒夫先生が関西大教授であられたため、関大の先生方もたくさんお見えになっていました。私は受付をしていたのですが、萩野先生から、あなたが中里見さんですね、博士論文をもとに出された本を読みましたよ、と思いがけずお声がけいただきました。二十歳以上も年の離れた初対面の駆け出しへの、激励も込めた先生のさりげないひと言が、いまなおくっきりと心に刻まれています。

その後、先生が長年研究されてきた謝冰心の詩集『春水』の手稿が、九州大学附属図書館濱文庫で見つかりました。これは二十二歳の謝冰心が、新聞連載をもとに単行本として出版するにあたり清書したもので、最も早い時期の自筆完全原稿として研究者に注目されました。そのことを知った九大の広報室は、文系の研究が話題にな

ることは珍しいので、記者発表会を開こうということになり、ついてはその意義を評価できる研究者を紹介してほしいと依頼されました。新聞等での「識者コメント」の役です。そこで謝冰心研究の第一人者である萩野先生にお願いしたところ、ご快諾をいただきました。

記者発表会は二〇一七年六月十六日に行われたのですが、なんとその日に萩野先生の奥様が入院されることになったのです。そんな非常事態の中で、複数の新聞社からの問い合わせに丁寧にご対応いただいた先生には感謝の言葉も見つかりません。萩野先生のコメントは、朝日新聞六月二十日、読売新聞七月一日に掲載されました。せっかくですので、ここに引用しておきたいと思います（前が朝日、後が読売）。

冰心研究の第一人者である萩野脩二・関西大名誉教授は「現存する冰心の自筆原稿では、最も早い完全原稿だろう。大変貴重だ」と評価。「日中文化人の交流を考える上でも興味深い」と話す。（山下和子記者）

謝冰心についての著作がある関西大学の萩野脩二名誉教授（中国近現代文学）は「驚くべき貴重な資料。戦時中の日中の文化交流を考える上でも興味深い」と評価している。（右田和孝記者）

『春水』手稿の発見を日本で一番喜んでいただいた萩野先生に、その実物を九大図書館で直接ご覧いただくことが叶わなかったことは残念でなりません。二〇一八年二月に九大で開催された謝冰心をめぐるシンポジウムに、萩野先生は体調の関係でご欠席でしたが、初期の二つの詩集『繁星』『春水』に関する、短いながら研究のエッセンスがつまった文章をお寄せ下さいました。その珠玉の論考は翌年刊行された『『春水』手稿と日中の文学交流』（花書院、二〇一九年）の序文として同書の劈頭を飾っています。

私の萩野先生とのお付き合いはこれですべてなのですが、善きこと、美しいものへの凜とした揺るぎない信念という点で、萩野先生と謝冰心は共通するように思います。萩野先生のお人柄を偲ぶとき、そして謝冰心のとくに初期の文章を読むとき、同じような暖かい気持ちと幸福感に包まれるのは偶然ではないように思われるのです。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

（九州大学教授）